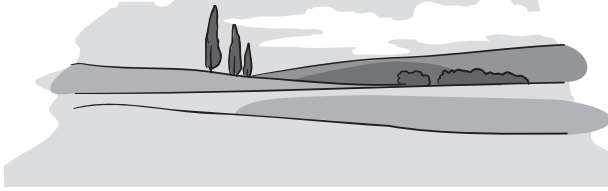


叙勲を受けて



空知医師会
小林産婦人科医院

小林 公民

今春、空知医師会のご推薦により、旭日双光章の受章に浴することができました。私自身は国家よりの勲章は全く縁がないと思っていましたし、それに人間の価値を一等から六等に分類していることに強い違和感を持っていました。

それで最近では数字による順番はなくなりましたが、やはり六つに分類されており、双光章は昔の勲五等とすぐ分かります。また同じ章でも大部分旭日章と瑞宝章に分けられております。瑞宝章はほとんど公務員で数も多いので、少数派の旭日章の方が先に発表されています。相変わらず政、官、民の差は歴然としており、税金より所得を得ている人の方が、自分で稼いで税金をきちんと納めている人より高位の勲章となっています。医師会といえども民間団体ですので、郡市医師会長は札幌市医師会長でも旭日双光章どまり、長年へき地で尽くしたいわゆる赤ひげ先生も大抵瑞宝双光章みたいです。受章年齢は70歳以上ですが、同じ公務員でも警察官、自衛官、消防関係の危険性の高い業務に永年従事した場合は55歳以上で叙勲が開始されます。公務員の場合、役所に栄典担当部局があって、無事定年をまっとうし、ある地位以上にあった場合推薦されるみたいですが、まあ叙勲は人生の総仕上げみたいな意味があります。当然ですが推薦する場合、本人は受け入れる確証を得てのことなのに、例外ですが急に本人が受章辞退の例もあったみたいで、気持ちは分かります。砂川の場合は勲六等のケースだったとのことですが、その後いろいろお金もかかりますし、面倒くさかったのでしょうか。しかし役所としては、その後散々嫌味を言われて大変だったとのこと。断るのならば、よく考えて自分の信念ではっきり表示しないと、ほかにえらく迷惑をかけてしまいます。

私の場合は叙勲に一言も二言もあるのに、続く人のためにもありがたくお受けしたのですから、大きなことは言えません。

公立病院の場合は公務員ですので、長く院長を勤めるとむろん叙勲の対象になりますし、看護師、レントゲン技師、検査技師等定年まで勤めて勲章を受けています。しかし医師の場合、ほとんどありません。勤務期間が短く、さっさと開業したせいもあったのですが、今は勤務期間が長く、副院長で定年退職の例も多くなっています。当然推薦の対象になる

と信じています。

勤務医（砂川ではほとんど公務員ですが）の場合、定年という区切りはありますが、開業医の場合は身体の許す限り生涯現役ですので、区切りがない。叙勲に関心が薄く、ただ開業しているだけでは叙勲の対象にはならない。しかし事業計画で常に唱えている世界に冠たる国民皆保険制度を堅く守るためにも、医師会の運営にかかわることも必要でしょう。

この制度の素晴らしさにどっぷり浸かって、これが当たり前の物として安心しきっているのが日本の患者であり、病院の健全経営を維持しているわれわれ医師でしょう。保険証一枚あれば、いつでも、どこでも、誰でも、医療が受けられる。高額な医療費でも、支払額には上限がある。こんな世界にもまれな素晴らしい制度を、皆で危機意識持って守らないと、特に米国の標的になり、崩されつつあると聞いています。

この制度に守られて、今の若い先生たちは医師会離れが強いと聴きますが、一匹狼で乗り切れるほど、これからの医療環境は甘くない。叙勲のために医師会活動に精を出せとは言いませんが、結果的につながればなお結構で、いつの時代でも万が一のための備えは必要でしょう。

今でも叙勲の資格があったと思っておりませんが、ほかの優秀な同期の先生方に申し訳ない気分ですが、多くの方より祝電やお祝いを頂いて、ありがたく思っています。たまたま砂川パークホテルの役員の立場上、売り上げ貢献のため、祝賀会をホテルが暇の仏滅の6月27日（土曜）に行いました。何となく生前葬の気分ですが、できたら10年ごとに行う予定でいます。

